



ウグシクだよ
ウグシク(御城)とは、首里城のことです。
元々は敬称ですが、首里では今でも親しみを込めてこの呼び方を使います。



平成二十年度 首里城公園「琉球王朝―舞への誘い」

■実施日時 ■ 平成二十年四月二日(水)～平成二十一年三月二十九日(日)

(毎週水・金・土・日 祝日の十一時、十四時、十六時)

■実施場所 ■ 首里城公園 下之御庭 系図座・用物座(無料区域)

■実施概要 ■

琉球王朝時代に首里城で育まれた伝統芸能文化である「琉球舞踊(古典舞踊)」を当公園において披露することにより、琉球王朝文化の発信の源として、伝統芸能育成と普及啓発、当公園の利用促進を図るとともに本県文化及び観光振興に資することを目的としています。

毎週日曜日には、地謡の生演奏でステージを盛り上げています。お気軽にご鑑賞ください。



平成二十年度 首里城公園

「GWクイズラリー」

■実施日時 ■ 平成二十年四月二十七日(日)～

五月六日(火)

■実施場所 ■ 首里城公園

■実施概要 ■

ゴールデンウィーク期間中、どなたでも気軽に参加できるクイズラリーを開催いたします。

首里城公園を散策しながら、質問のポイントを実際に見て答えていただく形式です。この機会に楽しく首里城について学んでください。参加者全員に首里城オリジナル記念品を差し上げます。さらに裏面のアンケートに答えた方の中から抽選で首里城オリジナルグッズを進呈します。

お問い合わせ先
首里城公園管理センター ☎098-886-2020
URL <http://www.shurijo.com/>

首里かわらばん 第9号

2008年3月発行
編集 首里かわらばん編集会議
発行/事務局 NPO法人 首里まちづくり研究会
〒903-0812 那覇市首里当蔵町 2-13
TEL 098-886-8615 FAX 098-886-1569
<http://happy.ap.teacup.com/suimachi/>
協賛 沖縄南部風景街道パートナーシップ
<http://www.dc.ogb.go.jp/road/ir/fukei/index.html>
協力 78 タイフーン fm (周波数 78.0 MHz)
〒903-0824 那覇市首里池端町 34 2F
TEL 050-3539-1178 FAX 098-882-2400
<http://www.fmnaha.jp/>
タイトルデザイン 石原左内

● 編集後記 ●

沖縄の春の恒例行事と言えば「清明祭」。中国から伝わった祖先祭のひとつで、旧暦の3月の吉日を選んで行われます。沖縄では季節ごとの行事を「折目」(ライミ)と呼び、物事をキチンとこなし、神や祖先に報告し、豊作と健康・繁栄を祈願することを意味しています。今回特集した寒川町でも、寺(折り)、御嶽・樋川・井戸(拝み)などの精神文化を大切に作る方々の姿がありました。地域の人の想いを感じながら、初夏を迎える寒川町を皆さんもぜひ散策してみてください。
※編集会議では、首里地域の皆さまのホットな情報提供をお待ちしております



バックナンバーのお知らせ

■首里かわらばんのバックナンバーがホームページでご覧になれます。
首里地域情報ポータルサイト「e 首里ドットコム」
URL <http://www.e-sui.com/>

- 1号 石畳のまち首里金城町 ■2号 城下町のメインストリート龍潭通り
- 3号 首里の旗頭 ■4号 首里の伝統菓子 ■5号 首里三箇のまちづくり
- 6号 備保駅周辺エリア ■7号 琉球の宮廷音楽 ■8号 真和志今昔

■お問い合わせ
事務局
TEL 886-8615

Vol.9 SHURIKAWARABAN 首里かわらばん

首里には、かつての王都として落ち着きあるたたくまいと歴史文化があると共に、たくさん魅力ある首里人(すいんちゅ)がいます。この首里かわらばんでは、地域で活躍している人たちを紹介していきます。

特集 寒水川・「水」への感謝でつながる絆



人々の暮らしに根づいた文化の面影が残る寒川町。今回は、町名の由来である寒水川樋川(スンガーヒージャー)のお話を中心に、昔の暮らしから現在の町の活動についてお伺いしました。

人々の暮らしをつるおしてきた寒水川樋川

寒水川樋川の樋口から今も聞こえる水の音。今こそ水が出ることは少ないものの、戦前の水量は「いつも樋口から水があふれていて、下の水溜を満たし、さらに下方へあふれて流れていた」といふほど。樋川近くにあった広場では、夕方になると青年たちが集い、水を浴びる風景も見られたといえます。

インタビュー
寒川町自治会長 島袋宗正さん
神谷厚明さん
座間味庸順さん
田場盛英さん

飲料水を汲みに行くことに。「ウビー(若水)のときにはもちろん、お茶を沸かすためにも水を汲みに行った。特にヌーリガー(海苔井戸)へ行くのが楽しみで、いつもノリ(シマチスジノリ)を手でとってつまんでいた」と神谷さん。絶え間なく湧き出ていた水は、人々に自給自足の暮らしをもたらしました。芋や豆、キャベツやトマトを栽培したり、味噌やゆし豆腐を作り、隣の金城町からアダン葉を仕入れてパナマ帽を作ったり、ぞうりを作る職人も。芭蕉を植えて繊維をとる糸をつむぎ、涼しいバサージュを織り上げる女性もいたそうです。「農閑期には現在の模合(※)のような会もあって、みんなで集まりご馳走を食べ、楽しいひと時を過ごしたものです」

寒川の人々の「水」に対する思い

戦後の道路拡張や周辺環境の変化から、寒水川樋川の水量も減り水質も変わってしまった現在。「できるだけ昔のままの寒水川樋川の姿を残したい」という思いから、町民のボランティアによって年に一度「カー掃除」が行われています。これは、「樋川の水をすべてさらって、水溜の底や石積みをきれいに掃除し、石積みも自分で修復する」という重労働。毎月一日には百寿会による清掃も行われ、寒川の人々の水に対する畏敬の念が伝わってきます。



旧暦九月九日、「重陽」にあたる菊酒の季節には「村拝み」が行われ、寒川の御嶽や古泉、城址や寺を巡礼し、五穀豊穡や無病息災を祈願します。十数名の女性が寒水川樋川をはじめ、村ガー、ヌーリガー、観音堂、マージ森御嶽(美連嶽)、安国寺を巡礼し、神うたを奉げます。最後に寒川公民館の屋内外を拝んだあと、フーフダ(お札)と木札を配置するのが特徴です。

みんなで守り、語り継いでいく寒川の文化

寒川町には、緑地公園の記念植樹やグラウンドゴルフなどの活動を行う「寒川緑地公園里親の会」があり、美しい町づくりに寄与しています。また子どもたちの進級や新入学を祝う「学児奨励会」も古くから続いている独自の行事で、子どもたちを地域で大切に育てたいという思いが受け継がれています。お年寄りが多いことから「寒川よもぎ会」などのデイサービス活動も活発。
「今後も自治会やボランティア活動を通して、寒川の文化を大切に継承していきたい」と自治会長の島袋宗正さん。
寒川には、ふるさとを守り、伝えていくとする温かな輪が広がっています。



※模合とは、グループで毎回一定のお金を出し合い、そのお金を「入す」順番に受け取っていくというもの。